

## ■西米良村のむらづくりへの取組みについて

西米良村むら創生課 黒木世巨

### 1. はじめに

西米良村は、宮崎県の中西部、熊本県との県境に位置する人口約1,100人の村です。ゆずやカラーピーマン等の農業、林業が主要な産業となりますが、近年では、米良糸巻大根等の伝統野菜、鹿や猪等のジビエ



図1 西米良村の位置

の活用にも取り組んでいます。総面積は約271k㎡ありますが、96%を山林が占めており、豊かな自然が自慢です。村を縦断して流れる清流「一ツ瀬川」は、質の良い鮎が育つことから、毎年多くの鮎釣り客を楽しませています。昔からこの豊かな自然には精霊「かりこぼうず」が住むと信じられており、「かりこぼうず」を一つのキーワードにした、本村ならではの自然や文化を活かした村づくりに取り組んでいます。

### 2. むらづくりの方向性

以前は木炭生産が盛んな村で、1940年代の最盛期には7,500人を超える人口がありましたが、木炭から石炭、石油への燃料の変遷、木材や特産林産物の価格低迷により人口は徐々に減少していきました。1995年には1,500人を切り、将来推計で2010年には748人になるとの予測が示されたことから、現在まで続けている「定住・交流人口の拡大」を目指した施策に大きく舵を切ることになります。

まずは温泉施設（西米良温泉ゆた〜と）の整備を皮

切りに、隣接する宿泊施設の整備、第3セクター「米良の庄」の設立を行い、観光の核を作りました。その宿泊施設を活用して、村で農業等の仕事をしながら、そこで稼いだお金で余暇を過ごす滞在型の旅行「西米良型ワーキングホリデー」制度の創設や、観光客のおもてなしのために毎週末村内どこかでイベントを開催する「かりこぼうずの四季まつり」の実施など、西米良ファンを増やすための取組みを継続して行っています。

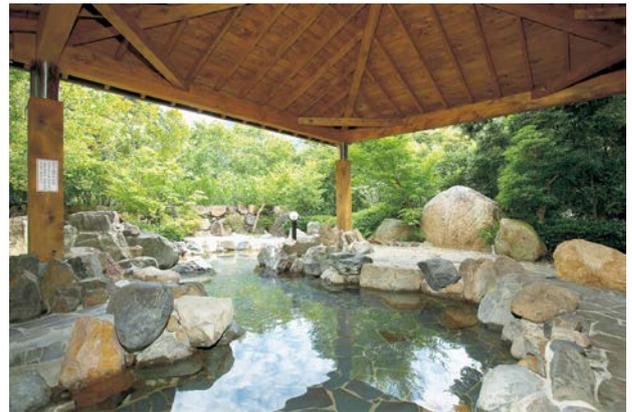


写真1 西米良温泉ゆた〜と 川の湯

### 3. 新しい魅力づくり

村に継続して訪れてもらうためには、新しい魅力を生み出していくことが必要です。ここからは、本村の新しい魅力を作り出している近年の取組みをご紹介します。

#### (1) おがわ作小屋村

村内には8つの集落があり、その一つが小川地区です。この小川地区は、村内でも一番高齢化が進んだ集落でしたが、集落存続のために住民が立ち上がり、運営を始めたのが「おがわ作小屋村」です。「作小屋」は西米良村独特の文化で、起源は明治まで遡ります。江戸時代まで西米良村は菊池一族が統治していましたが、

版籍奉還の折、当時の殿様は自分の領地を全て村民に分け与えました。村民は、そこに田畑を拓き農業を始めるわけですが、自宅から遠く離れた土地を与えられたものは、農繁期になると自宅まで帰ることができないことから、農地のそばに寝泊まりするための仮住まいを作り、そこで生活をしていました。それが作小屋です。

おがわ作小屋村では、その作小屋を再現するとともに、昔ながらの文化と歴史を伝え、西米良地採れの食材で食事を提供しています。なかでも、16の小皿に彩り鮮やかに盛り付けた「おがわ四季御膳」は大変好評で、開業から10年経った現在でも年間1万人を超える観光客が訪れています。



写真2 おがわ作小屋村とおがわ四季御膳

## (2) ステラスポーツ

ステラスポーツは、西米良の大自然を体全身で感じることができるレジャー施設として、2019年5月にオープンした西米良村で初めての民間による観光施設です。一ツ瀬川に隣接した絶好のロケーションで、気軽に贅沢なキャンプが楽しめる「グランピング」と、透き通った川の流れを体感できる「ダッキー（川下り）」の体験ができます。



写真3 ステラスポーツのグランピング

この施設の特徴は、村の新しい魅力を創出し、新しい客層を獲得していることにあります。これま

での宿泊施設は、比較的安価な設定で幅広い客層をターゲットにしていますが、ステラスポーツでは、少し贅沢をして良いサービスを受けられるキャンプ型のホテルのような感じで、少し高級志向の客層を呼び込むことに成功しています。また、せっかくの大自然があるにも関わらず、それを活かした体験型のレジャーが存在していませんでしたが、一ツ瀬川を活用したアクティビティを生み出し、気軽に濃密な川遊び体験ができる環境を提供しています。十分なシャワー設備もありますが、西米良温泉とも連携したサービスを提供して相乗効果をもたらすなど、新たな客層の誘客により村全体の産業にも良い影響を及ぼしています。



写真4 一ツ瀬川でのダッキー

## (3) 西米良スカイトレイル

前述したとおり、西米良村は96%が山林で九州山地のほぼ中央に位置しています。村には米良三山と呼ばれる市房山(1,721m)、石堂山(1,547m)、天包山(1,189m)があり、春に開催する山開きには毎年多くの登山愛好家が訪れます。西米良スカイトレイルは、この西米良最高峰の市房山の山頂を折り返しとする、全長38km、累積標高3,364mのトレイルランニング競技です。

一見過酷な競技ですが、遠くは北海道や青森など全国各地から約300名の参加があります。私たちも驚いていますが、西米良の自然を生かしたスポーツイベントとして定着しつつあります。このイベントでは、村内への宿泊を促すため、前日に清流釣りやゆずちぎり体験などの農村体験イベントや参加者の交流を深める前夜祭を開催しています。前夜祭では、地元の食材を使ったオードブルを準備して食を、神楽などのステー

ジイベントにより村の風土を楽しんでもらえるような工夫をしています。また、コースの途中には、選手が食事や水分を補給するエイドステーションを設けていますが、地元婦人会の協力をいただいて、ここでも軽食や地元ならではの食事を提供しています。参加者の中には、この食事や村民とのふれあいを楽しみに毎年参加される方もいらっしゃいます。



写真5 スカイトレイル山頂付近の様子

#### (4) にしめら川床

川床は京都の夏の風物詩ですが、自然の涼を感じながら食事をとれる場所として西米良村でも夏季限定で実施しています。川床を楽しめるのは、九州では西米良村だけです。温泉の隣を流れる谷川の上に食事処を設置して、一ツ瀬川で獲れた天然の鮎の塩焼き等が楽しめる食事を提供しています。

谷川の上を吹く風は涼しく、気温は周囲よりも3～4度低くなります。谷川のせせらぎを聞きながらゆっくりと食事ができるということで大変好評をいただいています。



写真6 にしめら川床

#### (5) にしめらジビエフェア

村では、数年前からジビエの活用に力を入れていません。鹿や猪は有害鳥獣捕獲により、年間をとおして捕獲されますが、その有効活用を図ろうと取り組みを始めました。ジビエとして活用される鹿や猪は年間約300頭で、捕獲から2時間以内に施設に搬入することなどの基準を設けて、安心して安全なジビエが提供できるよう猟師の方とも協力しています。平成30年3月には、より衛生的な処理ができるよう解体施設を新設し、九州では1番目となる国産ジビエ認証を取得しています。

この質の良いジビエの消費拡大と同時に、村の特産品として飲食店での利用拡大を図るため、「にしめらジビエフェア」を開催しています。これはジビエを活用した食のイベントで、期間中は村内の飲食店で提供するジビエメニューを割引で食べることができるほか、店舗によってはフェア限定のメニューも登場します。昔からのイメージで、「臭い」「硬い」と敬遠される方もいらっしゃいますが、基準に従って処理されたジビエは臭みも少なくおいしい食材です。旅行先では、そこでしか食べられない「名物」を食べたくになります。ジビエが西米良の名物となるよう継続した取り組みを行う必要があると考えています。



写真7 ジビエフェアの料理

#### 4. おわりに

日本では、人口減少と高齢化が進み、東京への一極集中が是正されない中、全国各地で移住・定住対策が施されています。本村も多分に漏れず、人口1,000人を維持しようという目標の下、各種施策を実施していますが、すぐに思うような結果は出ないのが現状です。そんな中、「1,000人が笑う村」をキーワードに幸福度の高い村「令和の桃源郷」を目指した村づくりを進めています。無いものねだりではなく、在るものに価値を見出し、新しい魅力として発信する。簡単なことではありませんが、村内外の多くの人の助けを借りて、そのような村づくりを着実に進めることが必要ではな

いかと思っています。また、それが村民の誇りにも繋が  
り、共感してくれた人が西米良村を訪れ、良い循環  
が生まれるような村づくりに取り組んでいきたいと思  
います。皆さん是非一度西米良村にきてくりゃい！

(2020年3月入稿)